

# 武田 正樹議員 清流クラブ

## インフルエンザ予防接種の更なる啓発に取り組み

### 問

(1) 予防接種は伝染病の抑止に最も効果的で、コストパフォーマンスの高い方法だと考えられている。

現在、市が推進する定期・

任意予防接種にはどのようなものがあるか。

- (2) 公費助成の現状は。
- (3) アレルギー体質者の予防接種には危険が伴うと聞くが、予防接種後、健康被害が出た場合の救済制度は。
- (4) 本市のインフルエンザの予防接種率ほどの程度か。
- (5) インフルエンザ予防接種の金額が病院によって異なると聞く。市ほどの程度金額の幅があるか把握しているか。
- (6) 子どもたちは2回接種する必要があると聞くが、負担を考えると公費助成を検討すべきではないか。

(7) インフルエンザの予防接種を含めた本市の啓発活動を尋ねる。

**リーフレットを全戸配布し接種を呼びかける**

### 答 健康推進課長

- (1) A類疾病はジフテリア、百日せき、日本脳炎など12の疾病、B類疾病は高齢者のインフルエンザ、肺炎球菌の疾病を定めている。A類疾病の予防接種対象者は、接種の努力義務があるがB類疾病に義務はない。
- (2) A類の子どもの予防接種は全額公費負担とし、B類の高齢者のインフルエンザは自己負担が1千円、高齢者肺炎球菌は自己負担が2千円で残りを公費負担している。
- 臨時接種は、原則、定期接種と同様の扱いで任意接種

種は一部の妊娠予定者の風疹の予防接種以外は、全額自己負担である。

(3) 定期接種、臨時接種は、厚生労働大臣が認定した場合、自己負担分の医療費が支給される制度があり、任意接種は、予防接種法による救済措置はない。

(4) 26年度の接種状況は高齢者インフルエンザの対象者は1万400人、接種者は5千162人で、接種率は約49・6%であった。

(5) 主な市内医療機関に確認した結果、3千円から4千円の範囲内であった。

(6) 自己負担で考えている。

(7) 子どもの予防接種は、毎年度初めにリーフレットを全戸配布している。

高齢者の肺炎球菌予防接種は該当者に直接案内を送付し、高齢者のインフルエンザ予防接種は9月から10月に全戸配布している。

接種対象者、その保護者に対し、あらかじめ予防接種の種類、受ける期日、機関及び場所、注意事項、受

けることが適当でない者、接種に協力する医師、その他必要な事項を引き続き周知するとともに、予防接種の有効性、安全性及び副反応、その他接種に関する注意事項などについても説明をしていかなければならないと考えている。

**農業女子プロジェクトを本市でも取り組んで**

### 問

(1) TPPの大筋合意を受け、国は多くの品目で限定的だしながら、一部は長期的には価格が下落する可能性もあるという。TPPを含めた本市の対策は。

(2) 本市の農業従事者のうち、女性の占める割合ほどの程度か。また、本市でも農業女子プロジェクトを取り組んでもらうことはできないか。

千億の補正予算を組み、28年度当初予算で農業施策に対し対策を打つとしている。注視していくとともに市単独補助金を含め現行を維持していきたい。

### 答 農政課長

(2) 5年前の農林業センサスによると農業従事者は2千680人、うち女性は875人で割合は、約32%である。

本年、世界農林業センサスという調査があり概数値によると全国的に約14%減少という結果があることから本市も減少していると考えられる。

農業女子プロジェクトは、国が進めているが、市の農業活性化により影響を及ぼすもので、市も多くの若手女性に取り組んでいただけだと考えている。

なお、本市では現在、女性農業者12名で農業経営や地域の担い手としての重要な役割を果たす農村生活アドバイザーという称号を受けていたが活躍していた。

**本市の農業活性化により影響を及ぼすと考えている**

### 答 市長

(1) 国は農業政策に対し3